

99匹より

RAKUNO GAKUEN



Green Stage

後輩や愛馬に見送られ卒業

Vol.101
2004.4.30

聖句

「ある人が羊を100匹持っていて、その1匹が迷い出たとすれば、99匹を山に残しておいて、迷い出た1匹を捜しに行かないだろうか。…もし、それを見つけたら、迷わずにいた99匹より、その1匹のことを喜ぶだろう。」
新約聖書・マタイによる福音書 18章12-13節（2004年度入学式聖句）

学長のあいさつ



危機的状況の中でも困難に立ち向かう

酪農学園大学 学長
大谷 俊昭

■ 本学の特徴を最大限に生かして

最近の私学は、新しい年度を迎えるたびに前年度より厳しい状況に追い込まれ、かつて大学が社会の流れと離れて教育・研究が落ち着いた雰囲気にもまれていた時代は完全に過去のものとなってしまいました。本学もこのような危機的状況の外にあるはずはなく、一部の学科の学生確保については吊り橋を渡るような経験を繰り返しております。有名大手大学は大学の名前にもものを言わせ目先を変化させることによって学生を集めるという方法に活路を求めますが、本学のように小規模な大学は同じことを行っても効果は期待できません。本学は小規模ではありますが、他大学にない特徴がいくつかあります。とりわけ建学の精神が大学の教育・研究の具体的方向性を指示している点で、他大学に比して際立っているとと言えます。しかも、その精神が今後数十年間世の中の求める方向と一致し続けることは間違いないと考えます。そういう観点で本学の3学部・短大・大学院の構成をみると、一貫性や統一性に欠けている点があり、これらの矛盾を是正することが急務であります。今年度中に環境システム学部を中心とした学科再編を完了する予定です。

さらに、2005年度には教育・研究・普及・運営などを全学的に自己点検し、2007年度に第三者評価を受ける予定です。また、高校教育界における本学卒業生の力は極めて大きいことも本学の特徴なので、卒業生教員との連携を従来以上に強化していきます。

■ キャンパス充実に向け大型設備投資

昨年度は、新動物病院と健身館（武道場とサークル部室）という大型の設備投資を実施しました。動物病院については動物診療に関する全国的ニュースなので、5月下旬に落成記念の式典・祝賀会を予定しています。本年度は、バリアフリー対策の一環として5階建ての農経館と食流館にエレベーターを設置します。また、サークル部員や一般学生の体力強化のためにトレーニングセンターを体育館に付設します。最近の高校は設備の充実が進んでいて、本学もただ「緑のキャンパス」に依存しているだけでは、見劣りするようになってきました。これらの施設は、本学がキャンパス充実を後回しにしてきたことを補足するものです。さらに新動物病院へ移転後の獣医1号館の全学的利用を図るために改修工事を行います。また、昨年実施する予定で遅れていた学内LANの能力向上工事も本年実行します。全学生に対するID付与や、マルチメディアを使用した教育の展開を可能にすることを目的としています。

■ 対策が総合的に常に有効に

本学創立以来、最も難しい時期に遭遇していますが、一つの対策が絶対的な処方せんとする時代ではなく、大学の営むあらゆる側面に目を配り、時間的にも短期的な視点と長期的視点を複眼的に捉え、対策が常に総合的に有効であるように心がけて困難に立ち向かう所存であります。皆さまのご支援をお願い致します。

キャンパスレポート

2003年度卒業式 971人が新たな旅立ちへ

酪農学園大学・大学院および酪農学園大学短期大学部の2003年度学位記授与式ならびに卒業証書授与式が3月15日、本学の体育館で行われました。

式は、高橋一宗教主任の司式による礼拝形式で行われ、讃美歌、聖書朗読、祈祷の後、学位記・卒業証書授与と進み、卒業生たちは自信と希望に満ち、堂々とした面持ちで学長から証書を受け取りました。

その後の式辞で大谷俊昭大学学長は、誠意ある対応で周囲からの信頼を得た卒業生を例にあげ、「本学学生諸君には、こういう心の持ち方が種として存在していることは間違いないと確信しています。知識や技能のみに頼らず、諸君の内にある種を育て人間性を磨いてほしい」と述べ、続いて安宅一夫短大部学長は「選りすぐられた60粒の種がいろいろな地にまかれようとしています。ある者は茨の地に落ち、ある者は良い地に落ちるかもしれない。なかなか芽が出ないかもしれない。すべてが忍耐して芽を出し、地にしっかり根を張り、茨や雑草に負けずに丈夫に育ち、立派な実をつけるよう願っています」と述べました。

最後に平尾和義理事長があいさつに立ち「ここで学んだ数年間、皆さんが培われたエネルギーは、これからの歩みの中で大いなる自信の基盤になると思います。しかし、長い人生のうちにはいつ自分を押しつぶす



ようなことが起こるかわかりません。最も大切なことは決して諦めないことです」と述べ、新たなスタートを切る卒業生たちを激励しました。

2004年度入学式 1,003名が新たに学び舎に

酪農学園大学・大学院ならびに短期大学部の入学式が4月7日、本学体育館にて盛大に行われ、1,003名のキャンパス生活がスタートしました。式は父母や教職員が見守る中、礼拝形式で行われ、新入生は緊張した面持ちで式に臨みました。

式辞に立った大谷俊昭大学学長は建学の精神について説明し「諸君は時代の求める大学に籍を置いていることに高い誇りと強い自覚を持ってほしい。本学は健土健民の精神を研究・教育の場で実践し、諸君と共に社会に対してその真価を問う時代を迎えている」と述べました。

安宅一夫短大部学長は、創立者黒澤西藏先生が目指した酪農について述べ「農業のための酪農、世界福祉のための酪農振興を目指さなければならない。三愛精神を体得し、健土健民の実現に努力し、日本酪農の発展と世界の福祉向上に貢献する人材に育ててほしい」と呼びかけました。

最後に平尾和義理事長は、大学生生活は人生で最も自由な時と位置付けたうえで「何が自分にとって重要であるかを見極めながら、一人ひとりがそれぞれ新しい自己を作り上げ、確立されることを心より願っています」とあいさつしました。



体育館の外では、部活動の勧誘に集まった先輩方や動物たちでにぎわい、新入生たちは温かい歓迎に笑顔で応えていました。

安宅一夫短大部学長が 日本草地学会賞を受賞

短期大学部の安宅一夫学長が2004年度日本草地学会賞を受賞しました。



受賞理由は、「サイレージ発酵における硝酸塩の役割の解明並びに*Lactobacillus casei*及び糸状菌由来セルラーゼの利用による高品質サイレージ調製法の開発と普及」で、そのダイナミックな研究の展開と普及により、20世紀後半におけるわが国草地酪農の画期的発展に大きく貢献したことが評価されました。

本研究は、わが国の集約的草地の生産と利用において、安全で高品質なサイレージを調製する技術を開発するために行われたもので、まず化学肥料の多用に警鐘を鳴らし、その中で硝酸塩がサイレージ発酵に関与することを発見し、そのメカニズムを解明しました。その後、人、動物、環境に安全なサイレージ調製法の開発に取り組み、*Lactobacillus casei*によるわが国初のサイレージ用乳酸菌製品を開発しました。さらに、糸状菌由来セルラーゼの実用化に向けた先駆的研究を行うとともにサイレージ技術の普及に努力しました。安宅学長は「黒澤西藏先生の『良牛は良草より、良草は健土より、健土は家畜より、健民は健土より、健土は愛土より、循環進展無窮也』をよりどころとして研究を実践してきました。それが認められてうれしい。この賞は本学で初めての荣誉なので後進が続いてほしい」と述べています。

学園トピックス



大学・大学院・短期大学部

原田名誉教授が宇都宮賞 (酪農指導の部)を受賞

第36回宇都宮賞(酪農指導の部)に、酪農学園大学の原田名誉教授(76)が選ばれました。この賞は北海道酪農の父・故宇都宮仙太郎翁を顕彰し、北海道酪農の振興・発展に寄与した関係者を表彰するもので、表彰式は宇都宮仙太郎翁の命日に当たる3月1日、札幌パークホテルで開かれました。

原田名誉教授は、昭和28年に帯広畜産大学を卒業後、同年4月に酪農学園短期大学に奉職して以来、今日まで草地の研究と教育に従事。長年にわたり生産者に「草づくり」への啓発を促すとともに、寒冷地など立地条件を考慮したアルファルファ栽培技術の指導を行い、地域酪農の安定に多くの成果をもたらしてきました。



した。その視点は常に北海道を中心とする全国の草地酪農の現場に向けられ、現在でも大きな影響を与えています。また、多くの研究者や学生を啓発するなど、指導的役割を果たしてきた功績は大きいものです。

その一方で、酪農技術者として発展途上にある近隣諸国(アジア)への貢献を目的とする「アジア酪農交流会」を発足(昭和50年)、会長に就任するなど、草地研究を通して広く学術文化の交流に尽くしてきました。

森田千春教授最終講義 『老驥伏櫪 志在千里』

本学獣医学部公衆衛生学森田千春教授の最終講義が2月13日、中央

館学生ホールにおいて行われました。

森田先生は1963年に北大獣医学部を卒業後、北里研究所付属家畜衛生研究所や国立予防衛生研究所を経て、1992年に本学獣医学部の教授として着任されて以来、12年間にわたって獣医学部をはじめ本学の発展にご尽力されました。

先生が標題につけた「老驥伏櫪 志在千里」とは“老いた駿馬は馬屋に寝ていたとしても千里を駆ける志を捨てない”という意味の故事成語です。先生はスライドを使って学生時代からこれまでの研究人生を振り返り、講義の最後には学生から花束が贈られました。



とわの森 三愛高等学校

厳粛な中で卒業式が 挙行される

3月1日に普通科、英語科、酪農経営科の337名が卒業しました。聖歌隊の讃美歌で入堂し、各クラスの代表が壇上に登り、村山昭二校長から卒業証書を受けました。平尾和義理事長からのあいさつ、島田泰美PTA会長の祝辞に続いて、学校長は、「君たちは混迷する時代をぜひ三愛精神に基づいて、切り開いてください」と激励しました。在校生代表の田原良輔(現生徒会長)さんの送別



の言葉に、卒業生を代表して小形咲乃(旧生徒会長)さんが、「今の世の中は激しく動いていますが、新しい世界を切り開くために、歩みを止めずに進んでいきます」と応じました。

式は厳粛な宗教的雰囲気の中、礼拝形式で行われ、学園関係者などが臨席し、多くの保護者も列席しまし

た。また24名の生徒が皆勤者、28名が3カ年精勤者として表彰されました。生徒の進路は81%が進学しました。

グレシャム市の交換留学を終えて 2004年3月卒業 鈴木 拓磨

私は、江別市の交換留学生として、江別の友好姉妹都市であるグレシャム市に行き、ホームステイをしながら現地の高校に通いました。実際にアメリカで生活してみると、観光旅行とは一味もふた味も違う実物大のアメリカに触れたような気がし、とにかくすべての物事のスケールが日本と比べて大きかったです。一日一日が驚きの連続で、私のアメリカに対する印象を一言で言うのなら「amazing」です。単に「楽しか

獣医学部 FD講演会を開催

酪農学園大学
獣医学部は1月
27日、中央館
学生ホールにお
いてFD講演会
を開催しまし
た。講師に東海



大学理学部化学科教授の安岡高志
さんを招き、「望ましい授業のあり方」
と題された講演会には、同学部の教
員はもちろん、他学科の教員も多数
参加しました。

安岡さんは主に授業評価について
述べ、学生が求める授業のあり方や
学生から見る若い教員と年齢の高い
教員の違いなどを紹介していきまし
た。講演の最後に安岡さんは「自分
の専門分野とは全く異なる授業に出
て、試験を受けてみることに。面白
くない授業を一日中受けてみて、そ
れがどれほどつらいことかを知るこ
と。この2点をお勧めします」と呼
びかけ、授業の改善を促しました。

った」という言葉だけでは言い尽く
せないほどの経験をし、自分自身を
見つめ直すチャンスくれました。

今回の留学は私にとって、素晴ら
しい思い出であると同時に、自分自
身に対する疑問と新たな挑戦へのス
タートだったのだと思います。

ブラックジャック大会に参加して 3年 柴野 敬人

今回、2月2日から10日までア
メリカのラスベガスで開催されたブ
ラックジャック大会に参加してしま
した。僕にとっては3度目の体操で
の渡米でしたが、今回は、1カ月前
に骨折してしまい、調整が不十分で
したが、得意の跳馬で8位に入賞す
ることができてよかったです。

同じ日程でウィンターカップとい

野幌森林公園 危険木伐採 めぐり森林管理所に質問状

本学の学生有志でつくる「野幌森
林検討会」（地環3年上原申裕代表）
は1月、野幌森林公園内の危険木伐
採についての質問状と提案書を、石
狩森林管理署に提出しました。

質問状は①利用者や住民への周知
が十分にされているのか②街路樹に
適用される危険木判定基準で伐採を
判定したのは適切か③枯れ木や老木
は野鳥の重要な生息場所であること
を考慮した事前調査は行われたのか
④景観の変化に影響するのではない
か—の四つで、提案書は「危険木の
再評価、検討」「散策路の伐採予定木
位置図などの提供」を求めています。

その後の現地観察会では意見交換
が行われ、同署は伐採を163本に削
減することを表明。今後の動きが注
目されます。



ラショナル選手が出場するような
大会も開催されていて、今強くなっ
てきているアメリカのトップクラス
の演技を見ることができてとても勉
強になりました。いよいよ高校生活
も終盤に入るので、けがなどに細心
の注意をし、インターハイ、国体な
どのメンバーに入り、結果を出し、
体操も勉強も来年の大学進学につな
がるように頑張れる年にしたいと思
います。

英語科 アメリカ研修旅行

去る3月3日に本校英語科2年生
はアメリカ研修旅行に出発しまし
た。今年度は生徒13名と引率教師
2名の総勢15名の旅行団となりま
した。

本学学生がアイスホッケー 北海道学生選抜チームに

2月11～15
日に開催された
第71回全日本
アイスホッケー
選手権大会に、
北海道学生選抜
チームの一員として、経営環境学科
4年の井村博行さんが出場しまし
た。



試合は11日に行われ、インカレ
優勝チームの明治大学と対戦し、2
対8という残念な結果となりました
が、井村さんは力の限り実力を発揮
しました。

井村さんは北海高校出身で、小学
4年生のときからアイスホッケーを
続けてきました。今回の出場や自身
の今後について「学生選抜の一員と
して選ばれた事はもちろん、周りの
人がとても喜んでくれた事がうれし
い。今後はチームのみんなをプレー
で引っ張っていけるような選手にな
りたい」と力強く話していました。

江別市の姉妹都市であるグレシャ
ム市でホームステイをしながら、姉
妹校であるグレシャム高校に通い、
語学研修やアメリカ文化を学びまし
た。また市長訪問や消防署見学、小
学校なども訪問しました。1週間グ
レシャム市に滞在してから、その後
ロサンゼルスに移動して市内観光を
行い、そしてアナハイムに滞在しな
がら、ディズニー関連施設を見学し、
3月17日に千歳に帰ってきました。

今回で17回目のアメリカ研修旅
行ですが、昨年度入学生より、英語
科募集を取りやめた関係から、英語
科としての研修旅行は最後となりま
した。これまでの総決算でもありま
したが、生徒全員が目的を達成し、
大きな思い出と成長を持ち帰って来
たことと思います。



活躍する同窓生 Vol.9

土づくりから始めた元気和牛の生産

「上村和牛」生産牧場

有限会社 ウエムラ牧場 **上村 篤正** さん

大 学 酪農学部食品科学科 1993（平成5）年卒業

大学院 酪農学研究科 修士課程 1995（平成7）年修了



雪解けを間近に控えた白老町石山のウエムラ牧場へ上村篤正さんを訪ねました。

ウエムラ牧場は、獣医師でもある父、正勝さんが1965年に島根産黒毛和種の2頭のメス牛からスタートした牧場で、繁殖が経営主体でしたが、1998年、長男篤正さんのUターンにより肥育を開始。2001年2月に初出荷を東京・芝浦市場で行い、上物率85%と高い評価を受けました。

現在、繁殖牛130頭、哺育・育成牛90頭、肥育牛80頭を飼育し、自社ブランド「上村和牛」の精肉を販売、また、敷地内にしらおい和牛工房を建設し、上村和牛を使った肉製品の生産販売も行っています。

現在、ステーキジャーキーとフロンティアベーコンを商品化、販売しています。

食べた方に「おいしい、大事な人にも食べさせたい」と思っていたいただける商品にしていくことが目標です。



Q. 牧場内に商品ラベルにもなっている乗馬クラブがあるようですが？

A. そんなに大げさなものではないのですが、会員制の無料乗馬クラブというところでしょうか。

馬は1頭で、名前はマリモ。牧場に一人でいる時に乗りたいと思って飼いだめたのですが、忙しくなって乗る時間が少なくなってしまったので、馬のためにも乗ってくれる人がいれば、ということをやっています。



Q. 最後に、在学生へのメッセージを。

A. あまり人に頼らずにそれぞれの人生を頑張ってください。

Q. まず、経営方針をお聞かせください。

A. 最初は、養鶏場がスタートで、今も白老町竹浦で(有)エッグ・プロを運営していますが、ここで出る鶏ふんを処理するために畑を作り、そこで牧草やデントコーンを生産し、その作物を牛に与えるために牛を飼い始めました。牛から排出された牛ふんは鶏ふんに混ぜ、完熟堆肥化してまた土に戻す循環型農業をしています。また、獣医師である父の細かい指示により、できるだけ抗生物質等の使用を控え、牛の健康に注意して育てる。牛をつながず、より自然に近い形で母子を飼育する。牧場内すべての牛のカルテを作成管理し、トレーサビリティを確立しています。

つまり、大地から食卓までをスローガンに「土づくりから始めた元気牛」の生産が方針です。



Q. 上村和牛について教えてください。

A. 初出荷で高い評価を受け、今後の経営にめどが立ちましたが、できるだけ地元で顔の見える方々に食べていただき、満足していただけることを「やりがい」とするため、2001年12月に初めて当牧場産5頭を上村和牛として町内で販売しました。

生産責任を持つために自らの名前を付け「上村和牛」とし、お客様からいろいろな評価・ご意見を受けながら、進化を続けるブランドを目指しています。



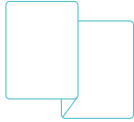
Q. 燻製加工しらおい和牛工房について教えてください。

A. 上村牧場産の和牛を使った肉製品のブランドとして、ステーキや焼肉とは違った和牛の味を堪能してもらうために始めました。

自家生産だから、餌の段階から吟味できることが強みです。小ロット生産で手間と時間をかけた究極の和牛肉製品です。



プロフィール
昭和44年2月11日生まれ。35歳。
趣味は、乗馬と演劇鑑賞ほか。



同窓会だより

◆◆ 関東同窓会拡大役員会 ◆◆

1月24日(土)、伊東市で関東同窓会の拡大役員会(1都6県の支部長、事務局長、役員)が開催され、安宅一夫短大部学長と連合会事務局木村が出席致しました。

討議事項は、今年度の事業活動および各支部の同窓会活動の計画についての検討と、連合会の同窓会活動との協調およびその推進等話し合い、また、学長より酪農学園の現状と教育事情の講話のあと、全体討議と学習および懇談交流を行いました。



◆◆ 北空知支部同窓会 ◆◆

1月31日(土)、北空知支部同窓会が深川市で開催され、高橋節郎同窓会連合会長が出席して同窓会の総会と交流会が行われました。総会のあいさつの中で酪農学園の教育の現状と、酪農学園および同窓会に対する理解と協力等の要望等を述べられ、通常総会終了後は、会員との忌憚のない学習交流と懇談が行われ、予定通り終了致しました。



◆◆ 獣医学科福岡県支部同窓会 ◆◆

1月30日(金)、獣医学科福岡県支部同窓会が、竹花一成教授、泉澤康晴助教授、中出哲也助教授が出席して「大学教育の目指すもの、大学および家畜病院の近況」等について学習講座が行われるなど会員と有意義な意見交換を行い、予定通り終了致しました。



◆◆ 獣医学科熊本県支部同窓会 ◆◆

2月3日(火)、獣医学科熊本県支部同窓会が開催され、及川伸助教授が出席し「産業動物獣医医療の今後の展開について」の講座を行い、卒業教育講座として学習と懇談交流会を行いました。

◆◆ 酪農学科酪進会同窓会 ◆◆

2月14日(土)、同学科酪進会同窓会による、定例会と教育講座、学習会が干場信司教授、森田茂教授が出席して行われました。研修会は

大学院生による研究報告と、これに対する学習交流と懇談交換会が行われました。

◆◆ とわの森三愛高校同窓会 13期生入会式 ◆◆

2月26日(木)、本校礼拝堂において2003年度(13期)卒業生の入会式が行われました。歓迎会で同窓会連合会札幌支部長紺野勝歳様より祝辞をいただき、卒業生代表幹事の平山実奈子さんより「同窓会の一員として、これからとわの森三愛高等学校の卒業生としての誇りを持って巣立ちます」と力強くあいさつし、新たに337名が同窓会の会員となりました。入会式後役員、クラス幹事による幹事会を行い和やかに終了致しました。



◎ 藍綬褒章受章者同窓生の紹介

加藤 孝 酪農学園短期大学9期卒(昭和34年度)

「多年知的障害者更正施設の長として周到綿密よく職務を遂行したことについて藍綬褒章を授与する一として11月20日、北海道庁で伝達授章が行われ、知的障害者更正に尽くされた功績として、藍綬褒章を受けられました。

これから開催される関係行事と同窓会

◎学内関係行事として第13回ホームカミングデーの開催について

日時: 2004年6月26日(土) 10時00分~12時15分
会場: 黒澤記念講堂
内容: 記念礼拝 10時00分~11時30分
礼拝 高橋 一(宗教主任)
奨励 原田 勇(酪農学園大学名誉教授・貴農同志会会長)
「学園にアルファルファが育って…今」

ミニパーティー 講堂2階 11時30分~12時15分
行事担当: 大学同窓会校友会、酪農学園、後援会、同窓会連合会の共催
行事の具体的な内容等は、改めてお知らせとご案内を致します。

◎埼玉支部同窓会の総会と生涯教育シンポジウム開催について

日時: 2004年6月13日(日) 10時より
会場: 別所沼会館 TEL 048-861-5219 / さいたま市別所4丁目14-10
*総会およびBSEについてのシンポジウム
*同窓会連合会高橋会長、酪農学園大学の先生が出席を予定

◎とわの森三愛高校(旧三愛女子高校)21期同窓会開催について

日時: 2004年6月12日(土) 18時より
会場: 札幌第一ワシントンホテル TEL 011-251-3211
札幌市中央区北4西4

お知らせとお願い

*同窓会連合会のホームページを同窓会活動にご活用ください。
HPアドレス: <http://www.rakuno.ac.jp/dosokai/iriguchi.htm>
*住所変更された同窓生の方は下記のいずれかの方法で、同窓会事務局までご連絡ください。

TEL: 011-386-1196 / FAX: 011-386-5987
Eメール: rg-dosok@rakuno.ac.jp
手紙・ハガキ: 〒069-8501 江別市文京台緑町582

酪農学園同窓会事務局

貴農同志会だより

◆◆ 第11回新年交礼会 ◆◆

第11回新年交礼会は、学園創立70周年、貴農同志会設立10周年にあたり、当然ながら10周年記念誌「貴農」が話題となり、学園の今昔に思いを寄せ、学究施設の目を見張るような充実と発展に驚嘆の声でいっぱいでした。特に新会員6名の方々のあいさつに対する現会員より「ご苦労さん」の声は例年よりうれしそうでもあり、感無量な響きを感じました。その胸の中にあるものは記念誌「貴農」に記された各部局での働きや出会いが、学園の歩みと重なった自分に思いをさせているのでしょうか。語り合うにはあまりにも短い宴席の時間でしたが、有意義な交礼会の一時でした。(長谷川記)



◆◆ 記念誌作成を終えて ◆◆

会員皆さまよりのご寄稿と、学園の役員の方々よりご祝辞および特別寄稿と共に原稿をお寄せいただき、また、編集委員の作成への情熱と努力があったからこそ、記念誌「貴農」を無事発行する事ができたものと思っております。ここに、あらためてご寄稿いただいた学園の役員の方々、会員の方々、編集委員のご苦労に対し、お



礼と感謝を申し上げます。

記念誌の編集等に当たった当時を振り返り、裏話、思い出話として述べ記載する事をお許しいただき、また、次回記念誌作成にいささかなりとも参考になれば幸いとも思います。

編集委員会の最初の打合せは、平成14年10月11日で、翌年6月ごろまで毎月、作業手順の打合せから、検討事項があれば月に何回か打合せを行うなど、懸案事項についての話し合いを行ってまいりました。主な具体的な例では「記念誌の名前や大きさは」「縦書きか横書きか」等から始まり、掲載する資料(会則から始まり「貴農」の由来まで)の検討をし、記念誌として望ましい条件など種々話し合いを行い、さらに作業手順の打合わせを行うことができ、8月中旬以降はほとんど校正作業に没頭し、後半は意気投合し(以心伝心、ア、ウンの呼吸)発刊作業を進めることができました。校正の作業をさせていただきながら強く感じたことは、酪農学園に在職中はそれぞれの立場で、懸命に努めてこられた片りんがうかがわれ、このことが現在の酪農学園の発展につながったものと感じさせられました。酪農学園が将来に向けて、さらなる発展をすることを願ってやみません。(木村記)

獣医師国家試験結果

2003年度(第55回)獣医師国家試験の結果が3月17日に発表されました。今回は、全国的にも前年より上回る結果となり、本学新卒者の合格率は96.0%という好結果となりました。詳細は次の通りです。

2004年3月31日発令 [退職・退任]
酪農学園大学
(1) 定年退職
鮫島 邦彦 (教授)
森田 千春 (教授)
高橋 セツ子 (助教授)
三平 野勝 (技師)
長谷川 慶子 (技師)
長谷川 慶子 (調理員)
(2) 依願退職
加藤 康子 (主事)
(3) 嘱託退任
井上 昌保 (教授)
上田 一男 (教授)
大石 河彦 (教授)
三石 勝彦 (教授)
許金 應哲 (教授)
中橋 辰保 (助手)
加藤 正隆 (主事)
加藤 正勝 (主事)

2004年4月1日発令 [新規採用]
酪農学園大学
(1) 新規採用
獣医 田村 豊剛 (教授)
獣医 廉石 智保 (教授)
食品科学 石津 美浩 (助教授)
食品科学 石津 善明 (助教授)
図書課 竹下 史子 (主任主事)
学事課 北原 明真 (主事)
教務課 大野 真 (主事)
試験課 藤林 孝 (主事)
農場 藤川 孝博 (技師)

(2) 嘱託新任
酪農 鮫島 邦彦 (教授)
酪農 新胡 正勝 (教授)
酪農 胡名 爾 (助教授)
食品科学 松本 久美子 (助教授)
食品科学 奥村 昌子 (助手)
食品科学 宗像 美恵子 (助手)
食品科学 浅川 子 (助手)
獣医 医場 三平 (技師)
農場 青木 上野 勝 (技師)
学生部 青木 由 (技師)
とわの森三愛高等学校
(1) 新規採用
有澤 奈々子 (看護教諭)
池田 淳郎 (教諭)
建部 大自 (教諭)
大塚 健太郎 (教諭)

(2) 嘱託新任
内生蔵 啓真 (教諭)
三上 義博 (教諭)
垣内 恵子 (教諭)
伊早坂 政宏 (教諭)

学園事務局
(1) 新規採用
総務課 永田 恭之 (主事補)
施設管理課 中村 丞 (主任技師)

(2) 嘱託新任
学園広報室 辻 和彦 (広報室長)

[昇格]
酪農学園大学
教授 森田 茂 教授 鈴木 敏一
教授 小林 山 教授 押谷 忠一
教授 山口 英 助教授 義平 大樹
助教授 岡本 博 助教授 中田 健
助教授 相原 晴 助教授 中田 健
[授職]
とわの森三愛高等学校教頭 赤尾 全廣
以上 (2004.4.1)

人の動き
酪農学園大学短期大学部
(1) 依願退職
森津 康喜 (助教授)
(2) 定年退職
松田 孝子 (看護教諭)
内生蔵 啓真 (教諭)
垣内 恵子 (教諭)
(2) 依願退職
大光 真礼 (教諭)
(3) 嘱託退任
松浦 武光 (教諭)
学園事務局
(1) 嘱託退任
岩澤 勉 (広報室長)

2003年度 獣医師国家試験合格状況

		受験者数	合格者数	合格率
本学	新卒者	151	145	96.0%
	既卒者	27	16	59.3%
	計	178	161	90.4%
全国	新卒者	1,058	984	93.0%
	既卒者	249	139	55.8%
	その他	2	1	50.0%
	計	1,309	1,124	85.9%

編集後記

今回から紙面をリニューアルしたことに気づきになったでしょうか? これまでの4段組を3段組にし、さらに字を少し大きくして読みやすさを第一に考えました。また、今年度からは発行回数を4月、7月、10月、2月(予定)の年4回に増やし、よりホットな話題を提供します。前号でも

お約束した通り、読みやすさ・内容の充実重点を置き、新たな気持ちで再スタートします。

なお、学園のホームページでは学園だよりのバックナンバーを掲載しています。2002年6月発行の95号からですが、ぜひ一度ご覧ください。(O)

酪農学園だより

RAKUNO GAKUEN Vol.101
発行：学校法人 酪農学園 2004.4.30

酪農学園大学/大学院/酪農学園短期大学部
とわの森三愛高等学校
編集：学園広報室
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582
TEL (011) 398-4158 FAX (011) 398-4157
HPアドレス: http://www.rakuno.ac.jp/
Email:koho@rakuno.ac.jp